

ロシア側、これ以上の譲歩困難 = 日本との共同経済活動で専門家 (2016/11/22-14:42)

【モスクワ時事】日口関係に詳しいロシア科学アカデミー極東研究所のビクトル・クジミンコフ日本研究センター上級研究員は21日、時事通信の取材に応じ、リマの日口首脳会談で協議された北方領土での「共同経済活動」について、「領土問題で、ロシアにとって実現可能で最大限譲れる提案はこれになる」と語り、ロシア側が領土問題でこれ以上譲歩するのは現時点では難しいとの認識を示した。

プーチン大統領は北方領土について「第2次大戦の結果、ロシアに主権がある」という見解を繰り返し表明。一方、日本政府は北方領土での共同経済活動はロシアの主権を認めることになるとして、容易に応じられないという立場を取っている。

クジミンコフ研究員は「ロシアが主権を譲るのは難しい。どういう形で日本と協力できるかを考えると、共同経済活動になる」と指摘。「協力のやり方は今後の議論次第だが、この形であれば、日本側もある程度、北方四島で活動できるし、ロシアの主権も損なわれない」と述べ、「ロシアとしては一番乗りやすい協力だ」と強調した。

さらに、日口両政府が作業計画を取りまとめた8項目の経済協カプランと共同経済活動の趣旨は異なると説明。共同経済活動は領土交渉で日本の要求に全く応じないという事態を避けるために考えられた「工夫」だと語った。

また、リマでプーチン大統領が共同経済活動について日本側と協議したことを明らかにしたのは「大統領が12月の訪日で（共同経済活動に関する）協力を確認したいということだ」と述べ、山口県長門市で行われる12月15日の首脳会談で大統領が何らかの成果を求めているとの見方を示した。

◇ビクトル・クジミンコフ氏略歴

74年生まれ。99年ロシア・モスクワ国立大学大学院修了。04年神戸大学大学院修了。08年からロシア科学アカデミー極東研究所日本研究センター上級研究員。北方領土問題や日口関係について論文を多数発表している。（了）



取材に応じるロシア科学アカデミー極東研究所のビクトル・クジミンコフ日本研究センター上級研究員 = モスクワ